

「安心できる場で好きなものに関わる」

安心して幼稚園で過ごしたり、やりたいことに取り組んだりするためには、自分の居場所があることが大切です。1学期にいろいろな場で過ごすことが多かったFさんが、「妖怪」の遊びを通して一つの遊びにじっくりと関わるようになった姿から、Fさんにとっての居場所とはなんだったのかを考えていきたいと思います。

9月 「垢を作る」

登園時に担任と妖怪あかなめについて話していたFさんと、妖怪をおびき出すために「垢」を作ることに。「あか」だから赤いテープが欲しいんだよ」と赤いビニールテープやスズランテープを桶のふちや底に貼っていく。終わると「こんなにたくさんあったらあかなめがたくさん来ちゃうかもしれないね」と嬉しそう。



先生と自分の好きなことの話ができてうれしいな。



次はこれを作ろうかな…

「キュウリを作る」

「河童はキュウリを食べるんだよ、知ってる？」とFさんから問いかけがあり、次はキュウリを作ることに。



黄緑色の花紙を緑色の花紙で巻いてキュウリを作っていく。「ポツポツもあるんだよ」とペンでトゲを描いていく。出来上がるとままごとコーナーからカゴを持ってきてキュウリを入れ、河童が来るのを待つ。

「のっぺらぼう作り」

別の遊びから戻ってくると「のっぺらぼうも作ろうよ」とのっぺらぼうの仕掛けを作ることに。画用紙を顔のパーツの形に切り、切った物にクレヨンで色を塗っていく。紙にパーツを貼り付ける時には、「のりで貼るとのっぺらぼうが来た時にとれないよ。そうだ、セロハンテープで貼ればいいんだよ」とテープでパーツを貼り付ける。作り終わると、友達と一緒に仕掛けが動いていないか観察する。



やっぱりこの場所で遊びたい！

次はこんな物を作りたい！

翌日…

「うみぼうずの仕掛けづくり」

次の日、昨日話していたうみぼうずの仕掛けを作る。丸く切った段ボールに金色の折り紙を貼ってお金を作り、網の中に入れてうみぼうずが見つけられるようする。最後に取られたことが分かるように鈴をつけ、うみぼうずが来るのを待つことに。



1学期は興味のある場を移動しながら自分のしたい遊びを見つけていたFさん。「妖怪」という自分の好きなものを十分に表せる場ができたことで一つの場でじっくりと遊んだり、自分のしたいことを教師に伝えながら遊んだりする姿が見られるようになりました。

教師が自分の思いを受け止めてくれたことや自分の好きなことを十分に表せる場ができたことが、「幼稚園でも自分の好きなことを出してもいいんだ」とFさんが安心して遊ぶきっかけになっていきました。また、友達が自分の作った場や物に気付いてくれたり、一緒に楽しんでくれたりした経験もFさんにとって大きな一歩になったのではないかと思います。

居場所＝場、だけではなく、先生や友達との心の繋がり、自分が作った物など、園内にあるすべての物がその子にとっての居場所になりうると思います。Fさんにとって「妖怪」の遊びそのものが心の拠り所となり、自分の世界と周りの世界を繋げてくれるものになったのだと思います。こどもたちが心地よく過ごせる自分の居場所を見つけられるよう、一人一人が今何を求めているのかを丁寧に受け止めていきたいと思います。

(石関 萌)